

# 農 大

令和6（2024）年度版

令和6年12月27日発行  
愛知県立農業大学校

## だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2  
Tel : 0564-51-1601 Fax : 0564-51-4831  
E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp  
ホームページ : <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



## CONTENTS

- 1 新年のごあいさつ
- 2 専攻紹介 養豚・養鶏
- 3 特集  
意見発表会を開催  
同窓会創立90周年記念事業を開催  
農大祭を開催
- 4 専攻トピックス
- 5 トピックス  
東海近畿ブロック指導職員研修会開催、一般一次入学試験の結果、  
第3回進路セミナー開催、岡崎商工会議所情報文化部が来校、  
県民公開講座「果樹の剪定講習会」開催、終業式

愛知県立農業大学校  
公式HP



Instagram



X (旧 Twitter)





## 新年のごあいさつ



**校長 恒川靖弘**

新年あけましておめでとうございます。

関係の皆様には、日頃から本校の円滑な運営に対しまして、御支援、御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本校は、昭和9年に追進農場として創設以来、90年間にわたり、本県の実践的農業教育の拠点として、一貫して農業の担い手の育成に取り組んでまいりました。昨年11月16日（土）には、本校同窓会主催により「創立90周年記念事業」が盛大に執り行われました。

本年は、来るべき100周年に向けて、次の一步を踏み出す年になります。これまでの伝統をしっかりと継承するとともに、時代のニーズに的確に対応しながら、本県農業を担う人材の育成に努めてまいりたいと考えております。

さて、年が改まって、2年生は卒業論文の取りまとめ、海外派遣研修を経て、3月には卒業式を迎えます。また、企画研修部の新規就農希望者を対象とした研修も、長期間にわたる研修課程が順次修了してまいります。学生や研修生が無事に巣立ちの時を迎えますが、これもひとえに関係各位のお力添えのおかげでございます。深く感謝申し上げます。

2025年度の学生の募集状況は、特別推薦入試、一般推薦入試、一般入試（一次試験）を経て、これまでに合計98名の合格者を発表しております。今後、二次募集を行って、定員100名の確保を目指すとともに、SNSなどを積極的に活用して、引き続き農業大学校の魅力発信に努め、意欲ある学生の確保に尽力してまいります。

本年も、職員一同、学生や研修生とともに、魅力ある学校づくりに取り組んでまいりますので、皆様方の一層の御理解、御協力をお願い申し上げます。



**農学科後援会長  
野田留美**

新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様には、日頃より農学科後援会の活動に格別の御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本後援会は、学生の寮生活における福利厚生や教育内容の充実への協力のほか、農大祭等へ参加し自らの研鑽に努めることなどを目的としており、皆様からの会費をもとに、学生への支援事業等を行っています。

去る12月7日の農大祭では、保護者の方からたくさんの農産品を御提供いただき、また当日は、多くの方にバザーの御協力をいただきましたこと深くお礼申し上げます。

引き続き、農業大学校と連携をとりながら、学生が充実した学校生活を過ごせるよう後援会活動を通じて、更なる協力・支援を図って参ります。

本年が学生、保護者の皆様にとって、希望に溢れる一年となりますよう心よりお祈り申し上げますとともに、農業大学校の益々の御発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 専攻紹介

## 養豚・養鶏専攻

## 養豚

養豚専攻では、7名（1年生3名、2年生4名）の学生が、豚の交配から分娩、育成、肥育、出荷に至るまで一貫した飼養管理の知識と技術を学んでいます。農大では、規模は小さいながらも母豚をグルーピングして分娩を集中させ、それに伴ってウィークリー化してメリハリのある作業体系としています。また、学生が中心となって、餌の発注から繁殖計画、日々の作業予定を決めることで責任感を持って飼養管理ができるようにしています。プロジェクト活動では、派遣実習や日々の管理の中で気づいた疑問点やアイデアを基に学生自らがテーマを決めて取り組んでいます。



分娩した子豚



肉豚の体重測定



人工授精



子豚の耳標装着



肉豚房への移動

出荷します



母豚給餌



育成豚



分娩母豚給餌

## 養 鶏

養鶏専攻は、9名（1年生3名、2年生6名）の学生が、愛知県の特産である「卵用名古屋コーチン」を主体に、白色レグホーン、ロードアイランドレッド、アローカナ、烏骨鶏、岡崎おうはんを合わせて約2,400羽飼養しています。育雛舎はウインドレス鶏舎、成鶏舎は開放鶏舎とウインドレス鶏舎のタイプの違う2鶏舎があり、育雛から成鶏までの飼養管理技術を一貫で学ぶことができます。また、鶏種や飼養形態による飼養管理方法の違いを学習できます。また、実習販売や農大祭等を通して、地元の方とコミュニケーションをとりながら売り方やブランド化など販売方法についても学んでいます。



育雛鶏舎



ウインドレス鶏舎



開放鶏舎



ヒナの受け入れ



デビーク



農大祭



卵パック作成



実習販売

特 集

# わたしたちの主張！ 令和六年度意見発表会



令和六年度意見発表会を、11月19日（火）午後1時から中央教育棟大講義室において開催しました。各専攻から1名ずつ選ばれた1年生8名が、全学生及び職員の前で、農大における実践学習、我が家の農業経営や生活、地域や世界の農村環境、派遣実習を機会に考えたことなどについて意見を発表しました。

いずれの発表者も、発表内容はもちろんのこと、発表時間や発表態度等においても専攻職員から指導を受けて、練習を重ねていました。当日、緊張からその成果を十分に発揮しきれなかった発表者もいましたが、農業に対する思いや後継者として解決したい課題、今後の農業のあるべき姿、将来設計等について熱意を持って語り、印象深い発表となりました。



校長を委員長とした4名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞は「家畜も人も心地よい畜産を目指して」を発表した養豚・養鶏専攻の枝村瑠里菜さん、優秀賞は「和牛を盛り上げるために」を発表した酪農専攻の平田慧さんと「夢のある果樹経営」を発表した果樹専攻の伊藤成祐佳さんがそれぞれ獲得し、校長から賞状ならびに副賞（後援会支援）を授与されました。

最優秀賞の枝村さんは、三重県立農大で開催される「東海・近畿ブロッコ農業大学校意見発表会」（1月16日開催予定）に本校代表として参加しますが、さらにその先の全国大会（2月6日開催予定）への出場も目指します。

### 畜産へ進むきっかけ

農業高校では環境デザイン科で学んできたため、畜産についての知識は全くなかった。そのため、家畜は狭い檻の中で一生を過ごし、臭くて汚い不衛生な環境で暮らしている「可哀想」な動物というイメージがあった。そんな中、他校の生徒から「養豚について学んでいる」と話を聞いた時、畜産に対する興味を持ちはじめた。高校在学時に先生からのアドバイスや友人からの話を聞いて、農大で養豚を専攻することを決意した。

### 家畜を飼うということとは

畜産の実習は私にとって未知の世界だった。家畜の命が人間のために利用されるという現実を受け止めきれずにいたが、畜産を単に「可哀想」という感情だけで判断することはできないと気づき、動物たちの命をいただくという行為は、感謝の気持ちを持つことが大切だと実感することができた。また、養豚農家での実習を通じて、農家の方々の豚の健康と快適さを守るための取り組みを見て家畜の負担を軽減することがいかに大切であるかを学んだ。



### 畜産に対する思い

畜産を学ぶ中で農家さんの努力や情熱、命に対する深い敬意を感じるようになった。畜産を通じて得た動物への感謝の気持ちを忘れず、命の尊さを大切に過ごしていこうと考え、家畜である動物と飼養管理を行う人の両方が心地よい畜産を目指して地域の畜産発展に貢献できるよう努めていきたいと思っている。

## 最優秀賞

「家畜も人も心地よい畜産を目指して」



養豚・養鶏専攻1年  
枝村 瑠里菜

### 新城市で生まれ育って

新城市は愛知県内でも和牛繁殖が盛んな地域であり、また、地域和牛ブランドとして「鳳来牛」を生産している。そんな新城市で生まれ育ち、高校では和牛に関して勉強した。血統や給餌方法など奥深い和牛の世界に魅力を感じ、より深く学びたいという思いから、農大に進学した。

### 派遣実習で学んだ支え合いの大切さ

新城市にある源氏肥育組合で派遣実習を行った。様々なことを学ぶ中で、地元の肥育農家や繁殖農家が厳しい情勢の中で経営難となりやめてしまうと聞き衝撃を受けた。経営を安定させるためには何が必要かを考え、最も大切なことは支え合いだと感じた。実習先では、農家同士や地域の支え合いがたくさんあった。地域の肉用牛農家、飼料メーカーの他、畜産以外の業界も含めて、皆が協力し支え合うことが地域全体の利益に繋がるとともに、農家が皆誇りをもって仕事をしていくために必要だと感じた。また、新城市で新規就農しやすい環境作りを目指しており、鳳来牛の付加価値をより高め、鳳来牛の生産者を増やそうとする意気込みに圧倒された。自分も一員となって活躍したいと実感した。



### 将来の夢

JAの職員など、農家を直接支える存在になり、経営の安定に貢献したい。地元新城市の支え合う姿とともに、鳳来牛を日本中だけでなく世界中に広めていきたい。そして皆が和牛に関心を持ち、さらに多くの人が力を合わせて支え合える業界にしていきたい。

## 優秀賞

「和牛を盛り上げるために」



酪農専攻1年  
平田 慧

## 果樹経営の現状

日本の果物は美味しい。農大の実習販売でも人気が高く、お客様に決して安くはない値段で購入していただいている。私が高校時代に研修したブドウ農家でも高単価で販売していた。日本の果樹経営は儲かる農業と見られるかもしれない。しかし、実際には「高齢化による担い手不足で産地が衰退している」とよく耳にする。その原因は様々あるが、私は大規模経営のハードルが高く、雇用就農の担い手が少ないからだと考える。

## 果樹栽培では周年雇用が難しい？

原因のひとつに周年で人を雇うことができないからだと考える。果樹栽培は繁忙期と農閑期があり、繁忙期のみの臨時的な雇用に頼る事が多く、安定した雇用と定着が難しい。私が派遣実習で行った研修先の農家では大規模経営と安定的な雇用を目指すため、栽培面積の拡大や複数品目栽培による繁忙期の分散化、従業員の教育などに取り組んでいた。また規模拡大にともない収穫量も増えるが、複数の販売形態を持つことや加工品開発を行うことで対策をしていた。



## 夢のある農業を目指して

周年雇用のための取組が定着すれば、職としての魅力も高まり、安心して働ける場となると考えている。農業を夢みる人にとって、何も農大に入って経営者になることだけが選択肢ではない。果物を食べることや果樹栽培が好きな人が安心して働く場を作ることこそ、これからの果樹経営には必要である。

**優秀賞**

## 「夢のある果樹経営」



果樹専攻1年  
伊藤 成祐佳

## 「初めての世界へ挑戦」

非農家で普通科高校出身だが、植物を育てるのがなんとなく性に合っているから、そういう関係の仕事をしたかったと漠然とした理由で農業に挑戦する道を選んだ。

農大に入って農業の基礎から教えてもらったり、派遣実習で街路樹や低木を扱う植木屋さんにお世話になって、入学前のような不安はほとんど感じなくなったし、今後農家を志すにあたって貴重な判断材料が得られた。

農大で学ぶ中で、農業を取り巻く環境や課題も見えてきて、その解決策も考えるようになった。これからも様々な問題に目を向けつつ、思い切って知らない世界に飛び込んでみてよかったと思えるように頑張っていきたい。



鉢物・緑花木専攻1年  
小阪 壮

## 「日本の農業の未来と私たちの役割」

今後の日本の農業がどのような方向に進むべきなのか、私の体験を元に考えると、全国的な農業人口の減少、気候変動、人々の農業への関心の低下などが深刻な問題として思い当たる。

農業人口の減少については、地域の農業イベントなどでの楽しい体験により、若者の農業への意欲関心を高めることが重要だと考える。

気候変動については、地域の実情に即し、環境に配慮した持続可能な農業手法を模索し、実践していきたい。

農業への関心の低下については、地元食材を使用した学校給食の導入などが有効だと考えられる。また、消費者との対話を大切にし、農業への理解を深めてもらえるようにしたい。

以上のことを重要な問題と捉え、私たち学生の力を集結し、農業の未来を担っていきたい。



切花専攻1年  
柘植 大和

## 「派遣実習を終えて」

私は農大に入学するまで、農業にほとんど触れる機会がなかった。

入学後、作物専攻で、育苗から収穫・乾燥調製・直売を通じた販売までの一連の作業を経験し、更に派遣実習で100ha以上の規模の稲作経営を行う岡崎市の農業法人で経験を積むことができた。

派遣先で収穫作業中に周囲を見て、耕作されていない土地の多さを改めて実感した。この光景を見て、耕作放棄地をこれ以上増やさないためにも、担い手を増やす必要があると考えた。

私がそのためにできることは、新たな担い手となりうる若い世代に農業の良さを知ってもらうことだ。また、若い世代をターゲットにした農業体験も積極的に行いたい。これらの目標を達成するために卒業後は就農し、経験を積みたい。



作物専攻1年  
内田 悠登

## 「好きなものを仕事に」

私は将来農家になりたい。農家は誰かの役に立つと考えたためだ。

幼い頃に母から「誰かの役に立つ仕事をするとな自分にとってもいいことがあるよ。」と教わり、将来誰かの役に立つ仕事をしたいと考えた。

私は中学生の時に授業で米不足のことを学んだ。歴史の先生から「米は人を選ばず助けることができ、ありがたがられる。」と聞き、農業は誰かの役に立つことができると考え興味をもった。

私は小さい時から体を動かすこと、話すこと、虫のことが大好きだ。農業ならばバスケットボールで培った継続力、地域活動で学んだ話術、害虫防除に好きなことが活かせると考え農業高校から農大へ進学した。

私は将来就農し、地域農家や住民と交流を持ち、どんな人にも笑顔で愛される農家になるため、今後も学んでいく。



露地野菜専攻1年  
小寺 輝

## 「TWICE～農業にかける2度の決断～」

私の叔母は豊橋温室園芸協同組合に所属しているハーブ農家で、何度も手伝いに行き、農業に興味を持った。

1度目の決断として、農大に進学することを決意した。農家派遣実習はハーブ類農家で行い、叔母と同じ豊橋温室園芸協同組合の農家の下で実習した。農家さんに刺激を受け、農家になりたいという気持ちが強まり、2度目の決断として、叔母の経営を継ぐことを決意した。

私が目指す農業として、まずは稼げる農家になることが目標である。また、豊橋温室園芸協同組合全体で売上げを増やせるように協力していきたい。いつかは、子どもたちに農業の魅力伝える活動をしていきたい。



施設野菜専攻1年  
村上 零依

## 審査講評

校長 恒川 靖弘

各専攻を代表した8名の意見を聴く、大変有意義な発表会となりました。

最優秀賞の枝村さん（養豚・養鶏専攻）は、畜産という未知の世界に飛び込んだ心の葛藤がリアルに表現されており、家畜への感謝の気持ちが高まっすぐに伝わってくる内容が高く評価されました。

優秀賞の平田さん（酪農専攻）は、農家派遣実習で学んだ地域での支え合いの具体例を交えて地元新城市の和牛に対する深い愛着が感じられる熱意ある発表が評価されました。

同じく優秀賞の伊藤さん（果樹専攻）は、果樹経営の課題の一つである雇用に関する焦点を当て、派遣実習農家さんの取組を参考にし、自分なりに分析して解決策を考察できたことが評価されました。

惜しくも、賞に入らなかった発表も、それぞれ自身の経験を通じて感じたこと、農業がおかれた状況や環境を踏まえた、個性豊かであり前向きな意見でした。

今後、学生諸君が自分の意見、考えを持って、それを相手の心に届けることを意識して、学校生活をより豊かにして欲しいと思います。

## 農業大学校同窓会創立90周年記念事業が開催されました

暦の上では立冬となるものの暖かさが残る11月16日（土）、農業大学校同窓会創立90周年記念式典・記念講演会が、農業大学校の中央教育棟大講義室を会場に同窓生や現・旧職員など約100人の方々に出席いただき、盛大に開催されました。

当日は、まず午後1時から記念式典が挙行されました。富永同窓会副会長の開式のことばで始まった式典は、柴田同窓会長のあいさつに続いて表彰式が行われ、今年12月に令和6年度あいちアグリアワード担い手育成部門を受賞される加藤廣行様に対して祝意を表すため記念品が贈呈されました。



記念式典であいさつする柴田同窓会長



表彰式にて加藤廣行氏へ記念品を贈呈

続いて、90周年を記念して、同窓会から大学校へ記念品（学生寮舎室の学習椅子200脚及び正門横の案内看板の更新）の目録贈呈が行われました。

次に、来賓として御出席いただいた恒川校長と鈴木前同窓会会長から御祝辞をいただきました。さらに、来賓として御出席いただいた伊藤県農業経営課長、元大学校長の方々及び小野原後援会副会長を紹介し、富永副会長の閉式のことばをもって午後1時30分に式典が終了しました。



農大への記念品目録贈呈



恒川校長から御祝辞



鈴木前会長からの御祝辞

続いて、午後1時45分から記念講演会が行われ、「農は国の本なり ～食と命を守る」という演題で、東京大学大学院特任教授の鈴木宣弘氏が1時間30分にわたって講演されました。鈴木氏は大学にて教鞭

をとる傍ら、F T A産官学共同研究会委員を始め、数々の国の審議会委員などを務め、日本の食料安全保障の第一人者として、我が国の食料危機への対応を訴え続けており、テレビや雑誌等のメディアに出演し、また多数の著書を執筆するなど様々な方面で御活躍されています。

講演では、豊富な知識や経験から日本の食料自給の低さの原因や将来の見通しなどユーモアを交えながら楽しくお話しされ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。最後は同窓会員へ向け多大なエールをいただき、盛んな拍手のうちに講演を終了しました。



参加者を引き付けた鈴木宣弘氏の講演



会場の参加者

記念講演会終了後は和耕寮食堂に移動して懇親会が開催されました。懇親会には御講演いただいた鈴木氏にも御参加いただき、美味しい軽食や菓子、飲み物のほか、農大産の名古屋コーチン卵を使用したプリンやナシも提供されました。懐かしい同窓生との旧交を温め、大盛況のうちに会は終了しました。



多くの同窓生が参加した懇親会の様子



当日参加者へ配布された資料等

特集

## 「農大祭2024」を開催！



12月7日（土）午前9時から午後1時まで、「90周年だよ！農大祭！！全員集合！！」をテーマに「農大祭2024」を開催しました。

当日は晴天に恵まれ、正午の気温が11.6℃と風もなく穏やかな日となりました。午前8時30分の受付開始とともに、お目当てのブースや整理券を求めて大勢の方が来場され、9時の販売開始時には多くのブースで既に長い行列になっていました。昨年の2,500名を超え、約2,900名の方々に来場いただきました。

今年も、来場者の皆さんの笑顔があふれる農大祭となりました。また、すべてやり終えた学生たちの充実した表情がとても印象的でした。

来賓、協賛・出展団体、保護者、来場者等、皆様の多大な御協力により大盛況のうちに終わることが出来ました。ありがとうございました。

### 農大専攻直売ブース

学生が丹精込めて育てた農畜産物の直売ブースは毎年大変好評です。

体育館では切花専攻のキクやストック、鉢物・緑花木専攻のシンビジウムやポインセチア等で埋め尽くされ、たくさんの方々が目的の花を買い求めていました。

テントブースでは、ハクサイやキャベツ、トマト、ナスなどの野菜や、ナシ、ブドウといった果物を始め、養豚・養鶏専攻の名古屋コーチンの鶏卵、作物専攻の米等を買求める姿が見られ、両手に抱えきれないほどの多くの農産物を持った来場者であふれていました。



## 農大専攻食品バザーブース

食品バザーでは、農大で穫れた農作物を使用した、五平餅や豚汁、牛串、大学いも、プリンなどたくさんのおいしいメニューが並び、来場者のお腹を満たしていました。



## 後援会提供ブース

後援会の提供品ブースでは、学生の保護者から提供いただいた野菜や米などを、隣のブースでは、協賛団体提供の名古屋コーチンの卵を使ったお菓子やうずら卵、牛乳、豚肉、サツマイモプリン、リンゴ、大葉などを後援会の皆様の協力を得て販売を行い、早々に完売しました。



## 協賛団体・企業等の出店ブース

協賛団体・企業等の出店ブースでは、計9団体の出展をいただき、お茶や蒲郡みかん、はちみつ、珈琲などの販売や、農業機械の展示販売や昔の発動機の実演をしていただきました。

さらに農大と連携協定を結んでいる岡崎市からは岡崎おうはんなどの商品の販売を行うとともに、みあい特別支援学校からは生徒さんの作品を展示しました。



## 専攻紹介パネル展

専攻展示室では、各専攻案内や学生の研究発表の成果をパネル展示するとともに、写真部の活動成果の展示も行いました。

## 茶道部による農大茶席

例年好評をいただいている茶道部による農大茶席では、たくさんの方が本格的な茶道を体験し、お茶と和菓子を堪能しつつ、全国有数の生産量を誇る愛知の抹茶と伝統文化である茶道への興味を持っていただけました。

なお、今年のお菓子は、農大産のシャインマスカットを使用した大福を御賞味いただきました。



## 農大キャンパスツアー

9時30分と11時の2回実施した農大キャンパスツアーには、各回定員を超え、併せて91名の参加者があり、普段は見ていただけないほ場や牛舎、トラクター等を見学して、農業や農大への理解を深めていただきました。



# 専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

## ○専攻別学生数

(注)カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切花	作物	果樹	露地野菜	施設野菜	酪農	養豚・養鶏	計
1年	6( 0)	8( 2)	6( 1)	13( 3)	13( 4)	15( 2)	11( 5)	6( 6)	78( 23)
2年	6( 2)	5( 1)	9( 2)	15( 5)	14( 7)	14( 3)	15( 6)	10( 3)	88( 29)
計	12( 2)	13( 3)	15( 3)	28( 8)	27( 11)	29( 5)	26( 11)	16( 9)	166( 52)



鉢花・緑花木

## 農大祭での花の販売、今年もありがとうございました！

鉢花・緑花木専攻の農大祭といえば、体育館全体を使った大規模な実習販売です。今年も、切花専攻と合同で実施したところ、たくさんの来場者にお買い求めいただきました。農大祭の主役は学生ですので、その年その年の2年生が中心となってレイアウトや人員配置、スケジュールなどを決めて実施しています。昨年と違うから戸惑った、説明が足りない、など課題はありますが、学生が一段と成長するいい機会となっています。来年もどうぞよろしくをお願いします！



切花

## 花束の受注販売、始めてみました

切花専攻の学生たちは、常日頃から花束の作成やラッピングの方法を勉強しています。もっとこの技術を活用するにはどうしたらよいか、学生たちは考えました。花束を作って実習販売で売ればよいと。

しかし、ただ売りに出すだけでは買い手がつかないこともよくあります。そのため、事前に注文を募り、注文のあった分だけ作ってお渡しするシステムにしました。これも学生の発案で、運営はすべて学生たちの手で行われています。

12月11日の実習販売では、注文第1号のお客さんに無事に花束をお渡すことができました。

自分も注文してみたい!と思った方、まずは毎週水曜日午後3時からの実習販売にお越しいただき、宣伝チラシを入手してみてください。注文方法や連絡先はチラシに書かれています。





## 県外学習でアオイパークと大田市場を視察

11月28、29日に露地野菜専攻および施設野菜専攻は校外学習で静岡県的一般財団法人アグリオープンイノベーション機構（AOI-PARC）と東京都中央卸売市場大田市場を視察しました。



AOI-PARCではDNAマーカーを利用した効率的な育種技術や栽培管理ツールの開発を学びました。

大田市場では、愛知県東京事務所とJAあいち経済連担当者から説明を受け、市場の機能、愛知県産野菜の流通方法、評価を学びました。



学生は、技術開発の現場や、市場が農家に求めていることを学ぶことができ、いい刺激を受けたようでした。



## キュウリ・ナスの先進農家を視察しました！

校外学習で西尾市のキュウリ農家、幸田町のナス農家のほ場を視察しました。キュウリ農家からは、JA西三河きゅうり部会の部会員同士があぐりログ等の環境モニタリング装置で環境測定データを共有し、勉強会を定期的に行うことで部会全体で収量を上げているという話を聞きました。



ナス農家からは施設ナスと露地ナスそれぞれの栽培の特徴や重油等の経費を意識した栽培管理などについて説明していただきました。また、農家さんが新規で農業を始められたことから新規就農時の経験談などを聞くことができました。

学生は栽培管理や清掃が徹底されているハウスを視察し、貴重なお話を聞くことができ大変勉強になったようです！



## 加工演習で大豆の加工を学ぶ!!

作物専攻では、2年生の加工演習として大豆の加工について学びました。豆腐やおからハンバーグ、おからサラダを造り、大豆からできた料理に舌鼓。豆腐はうまく固まらずに難しそうでしたが、自分たちで作った豆腐はとてもおいしく、市販のものとは違い大豆の味がしっかりと感じられる味わいでした。その後は味噌造りも行い、来年使用する味噌の仕込みも行いました。来年の出来が楽しみです。





## とっても楽しい剪定作業

果樹専攻では12月に入り剪定の作業が始まりました。

1年生の中には、複数品目ある剪定方法をいっぺんに指導されたり、剪定自体考えることや注意しなければならないことが多くあることから、パンクしてしまっている学生が何人もいました。

そんな1年生を2年生がフォローしているのを見て、もともと頼もしかったのにさらに頼もしくなったなと思っていました。

1月に入ると1年生と2年生と一緒に作業することも減っていくので今のうちに必要なものを2年生から吸収して代替わりできればと考えています。



## 分娩ラッシュです

本校では年間25頭程度の分娩があります。月に2頭程度の分娩がある想定ですが、実際には、暑熱ストレス等によって受胎が難しい季節があるため偏りがあります。そのため、今年の厳しい夏を乗り越えて、秋から冬に受胎した牛の分娩ラッシュが始まっています。

今年は、11月以降4頭の分娩がありましたが、なぜか休みの日や深夜の分娩が多く、当番生は大変な思いをしながら作業しています。頑張っただけで分娩に立ち会ったおかげで、分娩事故は起きていません。

今年度は1月から3月までに、さらに12頭の分娩が予定されています。今後も分娩事故がないように管理していきたいと思ひます。



## 学生会メンバーがエフエム EGAO の収録に行ってきました

養豚・養鶏専攻の学生を含む学生会メンバーが、農大祭のPRのためラジオ番組に出演しました。番組では、農大祭の見どころや食品バザーについて紹介するとともに、実習内容はじめ、学校生活の楽しいことや大変なことなど、メインパーソナリティーの方と対話しながら農大を紹介し、リスナーの皆様にもしっかりとお伝えすることができました。

初めてのラジオ出演でとても緊張しましたが、農大のことを知ってもらえる良い機会となり、学生にとって大変貴重な体験になりました。



## トピックス

### 東海近畿ブロック指導職員研修会を開催しました

11月20日(水)に東海近畿ブロック農業大学校指導職員技術担当者研修会を開催しました。

開催テーマは、「農業大学校で取り組む直売について」で、東海近畿ブロックの農業大学校9校の指導職員が情報交換を行いました。

まず、本校から実習販売の取組状況について報告した後、各府県から、直売の教育上の位置づけ、開催頻度、学生の役割、販売品目、年間販売金額、販売価格の決定方法、特徴的な取組などを報告していただきました。

特徴的な取組として、直売を通じたマーケティングや経営管理能力の向上活動、学生全員を社員とした会社組織での収益事業、キャッシュレス化の試行など、各府県の創意や工夫がうかがえました。

販売の規模、売上金の使途、周辺環境や客層など、各府県の農業大学校のおかれた状況が異なる中、様々な取組が行われており、有意義な情報交換をすることができました。

令和7年度は三重県で開催されます。

### 令和7年度入学生 一般一次入学試験の結果について

12月10日(火)、一般一次試験（小論文、数学Ⅰ、面接）を行いました。受付では多くの受験生の緊張する姿が窺えましたが、面接では農業に対する夢や希望を堂々と答えてくれました。合格発表は12月19日(木)に行い34名が合格、先に実施した推薦入試と合わせて合格者は98名となりました。

一般二次試験は令和7年2月13日(木)に行います。募集期間は令和7年1月10日(金)から1月27日(月)、募集する専攻は、「鉢物・緑花木専攻」、「切花専攻」です。

※ 詳しくは、本校ホームページをご覧ください。



### 第3回進路セミナーを開催しました

12月13日(金)に1年生を対象とした第3回進路セミナーを開催しました。2年生からの就職活動等事例紹介と農業法人代表者による講演の2部構成で実施しました。

第1部では「私の就職活動の取組」と題して、雇用就農・就職・進学予定の2年生7人から自らの取組や体験談を紹介してもらい、あらかじめ用意していた1年生からの質問に答えてもらう形式で進めました。2年生からは「就活を早めに始めて早く終われば残りの学生生活が満喫できる」、「面接を想定して質問や意見をノートにまとめておいた」、「編入試験に向けて図書室の専門書で勉強した」など貴重なアドバイスがありました。



第2部は(有)千姓の代表取締役、都築興治さんを講師に迎えました。(有)千姓は「農業で食を楽しく豊かに」という経営理念のもと、阿久比町で水田作・野菜の生産、加工品・弁当販売、収穫体験イベント等を展開しています。都築さんからは新規就農に向けた独自の研修プログラムの紹介の他、農業の特徴、農業法人や会社等が新入社員に求める資質・能力等についてお話がありました。学生がテーマに関連した質問をしたり、学生からの質問に答えたりする時間も設けられ、学生には進路について考える良い機会になったと感じられました。

### 岡崎商工会議所情報文化部会員が本校を見学しました

12月13日(金)に岡崎商工会議所情報文化部会の部会員及び関係者21名が、12月例会で本校に来校されました。

この例会は、岡崎市内の施設を見学して見聞を深め、今後の地域連携に役立てることを目的としています。見学先として、市内にあるが地域企業には意外と知られていないということで、本校に声をかけていただきました。



当日は、本校代表の恒川校長が、「農業大学校の役割と取組」と題し、講義で本校の特徴を説明した後、37.5haある本校の主要施設として機械エリアやICT温室、各専攻のほ場を徒歩で1時間かけて案内しました。

参加者からは、「休日の生産物の管理はどうしているのか」、「育種や試験研究もしているのか」といった質問もあり、日頃は接点の少ない農業に関心をもつていただく機会となりました。

最後に、部会役員さんから、「農業大学校の名前は知っていたが、その規模や業務内容は知らず、勉強になった。食を支える担い手を育てる農業大学校の業務は、国にとっても重要なことで、なくてはならない部分を担っていることが理解できた。今後とも貴重な人材をたくさん育成していただきたい」とのエールをいただきました。

今後とも、地域に理解され、期待されるよう本校職員一同励んで参ります。

## 県民公開講座「果樹の剪定講習会」を開催しました

「家庭果樹の剪定に必要な知識の習得」をテーマに、県民の皆様を対象とした県民公開講座を12月17日（火）に開催し、37名の参加がありました。講師には学識経験者の都築壽男氏をお招きし、講義と剪定の模範実技を行いました。

講義では、おいしい果実のならせ方や病虫害防除のポイント等について、模範実技では、実際にカキの栽培ほ場に移動して、その剪定のポイントやコツを学びました。

参加者からは、多くの質問が出るなど、真剣さや熱意が感じられました。研修後に実施したアンケートでは、全員から「参考になった」と高い評価をいただきました。



## 終業式を行いました

12月20日（金）に終業式を行いました。

恒川校長からは、今学期を振り返り、収穫感謝祭や農大祭などでは学生が主体的に活動し、大盛況に終わったことについて感謝とねぎらいの言葉がありました。

また、1年生は農家派遣実習での充実した学びができたこと、2年生は残された学生生活が充実したものになるよう、卒業論文、海外派遣研修に努力するよう話がありました。

新年は1月7日から始まりますが、全員が元気な姿で会えるのを楽しみにしています。

